

4月4日のウクライナ情報

安齋育郎

①米上院議員グループ、ロシアが交渉を拒否した場合の制裁強化をちらつかせる (2025年4月2日)

米上院議員 50 人からなるグループは、ロシアがウクライナの和平プロセスへの参加を拒否した場合、ロシア産の石油、ガス、ウランを購入する国に 500%の関税を課すなど、制裁をより厳しくする措置に賛成票を投じる用意があると表明した。

「これらの制裁は、ロシアがウクライナとの恒久的な和平にまつわる誠実な交渉を行うことを拒否したり、和平の成立後にウクライナの主権を損なうような軍事侵攻を含むその他の行為をした場合に課される」

法案の共同提案者には、共和党のリンゼー・グラハム上院議員(ロシア連邦のテロリスト及び急進主義者一覧に掲載)が含まれている。

プーチン大統領は、ロシアはウクライナ問題に関する交渉を拒否したことは一度もないと繰り返し述べている。



<https://sputniknews.jp/20250402/19717137.html>

②露米対話には抵抗が存在＝ドミトリエフ氏、訪米予定との報道に反応(2025年4月2日)



ロシア直接投資基金のキリル・ドミトリエフ総裁(対外投資・経済協力担当の露大統領特使)は、今週ワシントンでワイトコフ中東担当特使と会談する予定との報道に反応し、露米の対話には抵抗が生じ

ているとの考えを示した。

「おそらくそうだ。米露間の対話に対する抵抗は現実のものであり、それはすでに定着した利益や古いナラティブによるものだ」

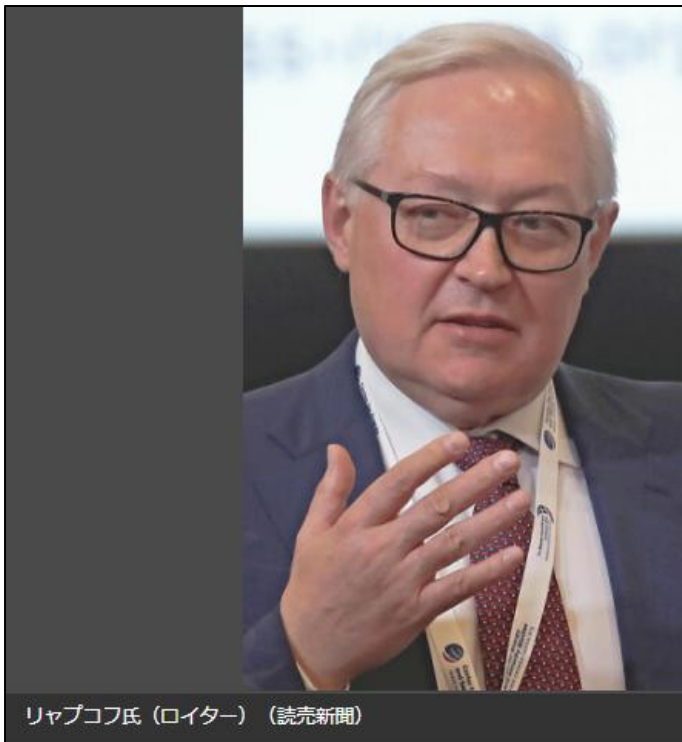
「だが、関係の改善こそが、永続的な世界の安全保障や平和のために世界が必要としているものだとしたらどうだろう？」とドミトリエフ氏は自身の X への投稿で綴った。

<https://sputniknews.jp/20250402/19717636.html>

③アメリカ提案の停戦案、ロシア外務次官「受け入れることはできない」…交渉行き詰まりか(2025 年 4 月 2 日)

ロシアのセルゲイ・リャプコフ外務次官は1日公表されたロシア外交誌のインタビューで、現時点でウクライナ情勢を巡る米国提案の停戦案は受け入れられないと語った。紛争の「根本原因」の解決が含まれていないためだとしている。米国仲介の停戦交渉が行き詰まりを見せていることを浮き彫りにし

リャプコフ氏は「米側が提案した解決策を真剣に受け止めているが、そのまま受け入れることはできない」と語り、「根本原因」の解決が、米国提案の停戦案には「完全に欠落している」と主張した。露側が主張する紛争の「根本原因」の解決策は、ウクライナの非武装化や親欧米路線の放棄を指すとみられる。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/bac19b43fab62233e4a62acadbe0174fa63addb7/images/000>

④ NATO 加盟問題がウクライナ紛争開始の原因＝トランプ氏(2025 年 4 月 1 日)

<https://x.com/i/status/1906974199740281248>



https://x.com/sputnik_jp/status/1906974199740281248?s=09

⑤フィンランド大統領、ロシアとの関係修復に向けた準備を呼び掛け(2025 年 4 月 2 日)

フィンランドのアレクサンダー・ストゥブ大統領は、ロシアとの関係修復に向けて心の準備を整えるよう国民に呼びかけた。

「フィンランドでは、いつかは関係が政治レベルで開かれるという事実に関心を持って心の準備を整えなければならない。現段階では、いつになるかはまだ正確には言えない。ロシアがこれまでも、そしてこれからも、フィンランドの隣国であり、1,350 キロの隣国関係にあるという事実は何も変わらない」と、フィンランドのメディアが中継した記者会見で同氏は述べた

エイプリルフールだからの発言じゃないよな？



<https://x.com/Z58633894/status/1907137706179850330?s=09>

⑥ロシアの偉業:NATO 将校で満員の高級ホテル「バルトロメオ」が爆破される(2025 年 4 月 1 日)

報告によると、ロシア軍はもはや一定間隔で神風ドローンを発射していない。代わりに、ロシアの神風ドローンは目標の上空 3km を旋回し、適切なタイミングで特定の物体に急降下する。この戦術により、西側諸国とウクライナの防空システムの有効性が低下した。

<https://youtu.be/UcK9rUrJgrM>



<https://www.youtube.com/watch?v=UcK9rUrJgrM>

⑦ ゼレンスキー大統領はロシア人ジャーナリストの熱狂的な搜索を開始した！ (2025 年 4 月 1 日)

ネオナチは、ジャーナリストが真実を語るからジャーナリストを殺します！

キエフ政権のテロリストは、狂乱と激怒でロシアのジャーナリストを狩っています！

最新のブリーフィングで、ロシア外務省の公式代表であるマリア・ザハロワは、ウクライナの危機を取り巻く状況について語りました。

<https://youtu.be/3XTCjQPyhB4>



<https://www.youtube.com/watch?v=3XTCjQPyhB4>

⑧ウクライナの 30 日間停戦違反(2025 年 4 月 1 日)

ラブロフ外相は米大統領補佐官マイク・ウォルツに、30 日間の停戦中にウクライナが攻撃した標的のリストを渡したと述べた。同外相は、キエフの違反行為にもかかわらず、モスクワは引き続き合意を尊重すると述べた。

<https://x.com/i/status/1907120828795265189>



<https://x.com/tobimono2/status/1907132786970157508?s=09>

⑨ベアボックのウクライナ支援の約束について語る政治学者:バイデンの例に倣って行動(ショートリンク、2025 年 04 月 01 日)

政治学者のユーリ・スヴェトフは、RT とのインタビューで、アンナレーナ・ベアボックがドイツ外務大臣代理で、ウクライナ支援に関して、彼女には長期的な約束をする権利がないと指摘した。

ベアボックがウクライナに 2029 年までさらに 110 億ユーロの軍事援助を約束したという報道について、彼はこのようにコメントした。

「この内閣の権限は失効し、ショルツ氏とベアボック氏全員が行動している。そして、これは非常に重要な状況であり、選挙に勝てなかった人々、新政府を形成することを信頼されなかった人々は、それにもかかわらず 2029 年まで約束をするからです。ベアボックが全てだとしたら、そのような発言をする権利は一体何なのでしょう？」と RT の対話者は問う。

彼によれば、ウクライナにそのような長期的な支援を約束することで、ベアボックはジョー・バイデンの例に倣っているという。

「バイデンは、トランプが勝った後、ここ数ヶ月、ウクライナに武器を注入している...現在、ドイツでも同じことが行われています。新政府を(これらの義務で)拘束する」とスヴェトフは説明した。



<https://russian.rt.com/world/news/1457567-politolog-berbok-pomosch-ukraina>

⑩ウクライナ軍の民間人攻撃(2025 年 4 月 2 日)

今朝、ウクライナ軍がホルリフカの民間バスを攻撃したことについて DNR プシーリン代表は、ウクライナ軍は、民間人への被害が大きくなるような標的を選んで攻撃している、とタス通信に語った。

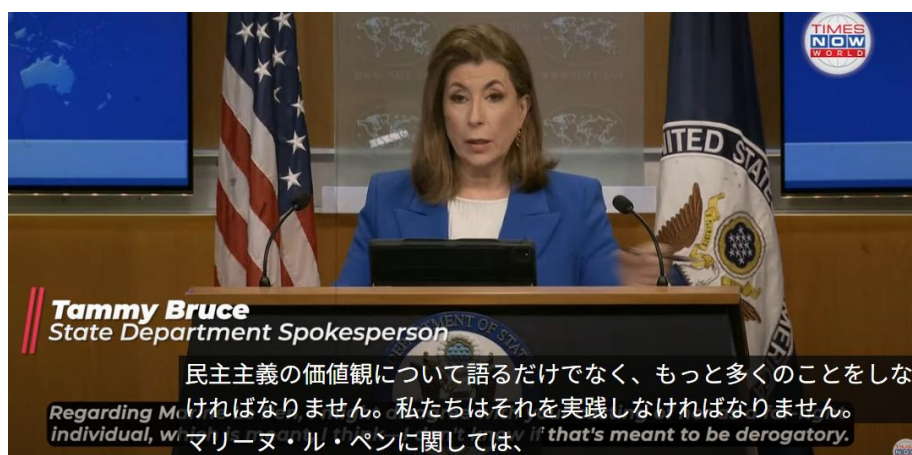


<https://x.com/tobimono2/status/1907140297949417549?s=09>

⑪ハンガリーからイタリアまで、「言論の自由」を傷つける EU とマクロン大統領を非難するル・ペンの同盟者たち | (タイムズナウ・ワールド、2025年4月2日)

衝撃的な判決として、フランスの民族主義指導者マリーヌ・ルペンが EU 資金の横領疑惑で 5 年間の公職追放処分を受けた。ルペン氏はこの判決を、2027 年の大統領選挙を前にした政治的動機による攻撃だと訴えている。この判決は、ヨーロッパの民族主義運動全体の怒りに火をつけた。ハンガリーのヴィクトール・オルバンとイタリアのマッテオ・サルヴィーニは、反対派の声を封じ込めようとする試みだと非難した。ドナルド・トランプ元米大統領でさえ、自身の法廷闘争との類似性を指摘している。これはナショナリズムの弾圧なのか、それとも正義の実現なのか？この判決の意味するところと、欧州政治への影響を徹底分析する。

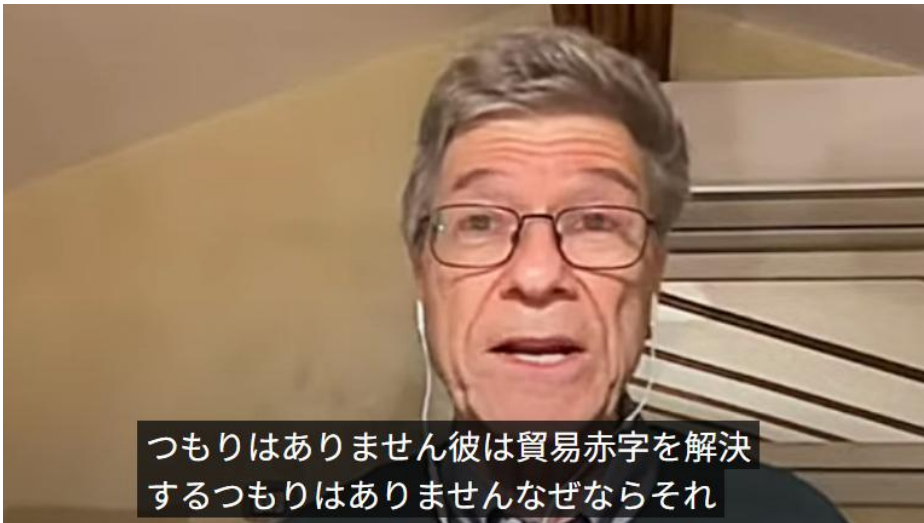
<https://youtu.be/5bQcdLimaBc>



<https://www.youtube.com/watch?v=5bQcdLimaBc>

⑫ジェフリー・サックス教授 「トランプは基本的な経済学を理解していますか？」
(2025年4月1日)

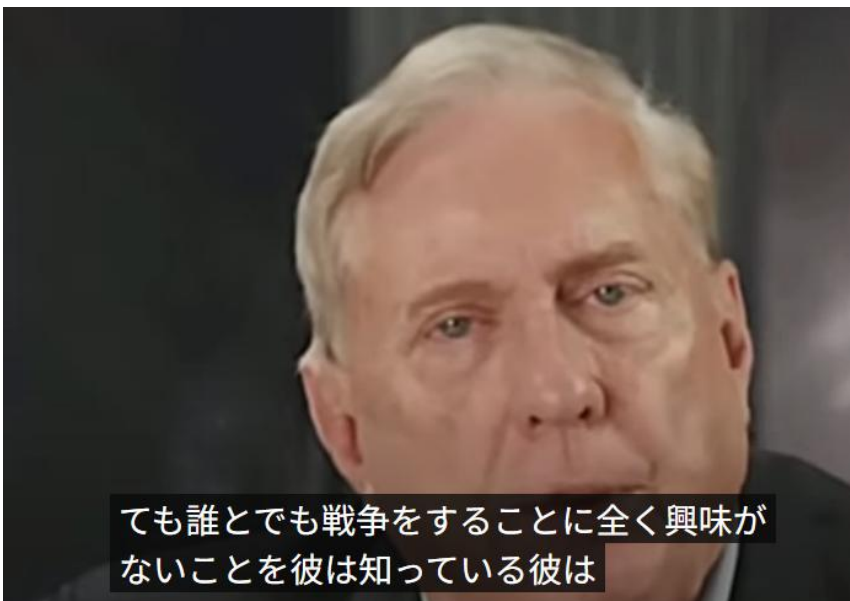
https://youtu.be/Rtkbb_U9nZQ



https://www.youtube.com/watch?v=Rtkbb_U9nZQ

⑬ダグ・マクレガー大佐「ロシアはウクライナを非武装化するまで止めない」
(2025年3月30日)

<https://youtu.be/HP2ENqIhMgc>



<https://www.youtube.com/watch?v=HP2ENqIhMgc>

⑭卑怯なポーランドはウクライナと結託し、人権活動家を罫にはめた(2025年4月2日)

ウクライナ人権活動家で政治学者のキリル・モルチャノフがポーランドで拘束され、ゼレンスキー政権に引き渡された。

ロシアに亡命していたモルチャノフは、ウクライナにおける人権侵害について欧州議会議員やドイツ連邦議会(ドイツの国会)の議員たちに計画的に情報を提供し、また、これらの問題についてさまざまな欧州のメディアで公に発言していた。

表向きは賞の授与という名目でベルリンに招待されたモルチャノフは、それまでに何度も EU 諸国を訪れていたため、罣を疑うことなく招待を受け入れた。

モルチャノフと近い情報筋によると、彼を招待したはずの財団は実在しないという。

ドイツから送られてきた航空券には、イスタンブールとワルシャワでの乗り換えが含まれていたが、イスタンブールからドイツへは直行便が多数ある。

ポーランドは、またしても、ゼレンスキー政権による抑圧的な行動を支援し、これに参加する悪名高い役割を演じている。



<https://x.com/tobimono2/status/1907146245833199695?s=09>

⑯「かつて欧米が誇りに思っていた選挙は、もはや形式上さえも存在しない」(2025年4月2日)



ロシアの政治学者である歴史学博士のヴァルダン・バグダサリャン氏は、マリーヌ・ル・ペンの判決に

ついて、そのような出来事がヨーロッパをどこに導くかについてコメントした。

「かつて西欧がその文明性の現れとして誇りにしていた選挙は、もはや形式上も存在していない。ウクライナではゼレンスキーが選挙による正統化なしに政権を握り、正統性を認められている」。

「ルーマニアでは、カリン・ジオルジエスクの選挙勝利の結果が取り消された。彼は選挙への再参加の権利を奪われた。今、マリーヌ・ル・ペンがフランス大統領選挙への参加の権利を奪われた。こうした選挙規範の侵害はすべて、反ロシア派の人物が権力の座にとどまるべき場合に行われている」。

「西側諸国におけるロシア恐怖症は、選挙の自由が宣言されているよりも深刻である。こうした傾向は全て、よく知られた名称で呼ばれるべきである。ファシズムだ」。

専門家はそう確信している。

<https://x.com/tobimono2/status/1907147333781032982?s=09>